

市民の声を、市政の力へ。
～ 声をチカラに 街のカタチに ～

現場で聞き、決断し、実現してきた4年間。

市民との約束は、「できること」を「実現すること」。

□ 170を超える事業所と1,200人を超える市民の声を市政へ
反映

□ 「決断」と「実行」で市民生活を前へ
(給食費無償化・高校生まで医療費助成・大型遊具・火葬場
整備など)

□ 国・県との連携を強化し、必要な財源を確保

□ できないことは約束しません。実現できることを、責任を
持って実行します。

□ 次の4年も、実現できる約束だけを。

【大前提となる政策実行のための手段と財源の確保】
どのように素晴らしい政策も、その手段と財源が確保なされ
ていなければ実行できません。

市民の皆さまや関係する団体・機関と密接な連携を保ち、し
っかりと調整をしたうえで政策の実行性を担保します。

また、市内の経済状況、市政の財政状況を把握分析した上
で、効果的で効率的な財政運営を実行するのに合わせ、交付
税・補助金・負担金など県や国から財年を確保します。

『田中あきらのまちづくり』

財政の健全性と持続可能性を維持しながら、市民生活と地域経済を守るため、これまでの取り組みに継続性を持たせ、迅速かつ柔軟に各施策を展開していくために、何より愛する飛騨高山をもっと良いまちにしたい、そんな思いで次期市長選挙に立候補することを決意しました。

～全ては人のために～ 人を育み未来につないでいきます

暮らす人、訪れる人が「しあわせ」を実感するまち飛騨高山

美しい自然や景観、伝統文化など、先人から受け継がれた有形無形の財産を守り、育て、次世代につなげていくのは人です。その人を育み、未来につながる飛騨高山を目指し、様々な挑戦に立ち向かって行きます。

【現場主義と現実主義＋決断】

○市民の皆さまの声・現場の皆さまの声の反映と対話の重視

4年間で医療、介護、教育、産業など多岐にわたる分野の170箇所を超える事業所を訪問し、1,200人を超える市民の皆さまから直接お聴きした期待や困りごとを、予算編成や具体的な施策に反映してきました。

○決断と実行

火葬場建設地の位置決定、サッカー場（人工芝）、原山市民公園への大型遊具、ごみ処理施設、野球場、市民プールなどの整備、給食費の無償化、高校3年生までの医療費無償化、荘川六厩の産廃最終処分場建設への反対表明等々、市民の皆さまの気持ちに寄り添った大きな決断をし、実行してきました。

また、国や県とのつながりを強め、顔の見える関係を築いたことで、様々な事業支援を受けたのに加え、しっかりとした国や県から財源の確保をしてきました。

【あきらが大切にしたいこと】

飛騨高山の人には、自然と向き合い暮らしてきた強さ、優しさがあり、これまで暮らす人も訪ねてくる人も心地よいまちをつくりあげてきました。

大切にしたいのは、ふるさと飛騨高山への思いです。「このまちに生まれて良かった」「学べて良かった」「働けて良かった」「暮らせて良かった」

そんな思いを持つ人が多くいるまちは、訪ねてみたい、暮らしてみたいまちとなり、多くの人とつながっていきます。

これからの４年間では、そうした人を育み、人に投資し、暮らす人、訪れる人が「しあわせ」を実感できるまちを目指します。

特にこだわる3箇条

I くらしを守る

【市民の皆さまの健康と命を守ることを最優先に、妥協しない医療体制を創ります】

これまでの医療機関の垣根を超えた連携、未来の医療従事者の育成、最新技術の導入支援に加え

◎二つの中核病院を一つにつなぐ「医療のセンター化」

現在、高山赤十字病院と久美愛厚生病院は、建物の老朽化や医師不足といった課題に直面しています。そこで、単なる建物や経営の統合ではなく、今いる医師や看護師、医療従事者という「地域の宝」を最大限に活かし、効率的で質の高い医療を安定して受けられる仕組みをつくるため二つの病院の機能を一つにまとめた「飛騨高山医療センター（仮称）」を構築します。

◎医療を志すなら一度は飛騨高山へ・医療に就くための環境整備

大学などと連携して飛騨高山の地で医師が研修できる環境をしっかりと整え、大学病院や民間とも連携し、あらゆる手段を講じて医師、看護師、薬剤師、理学療法士といった医療従事者を確保します。加えて、ソフトとハード面の受け入れ環境を整備し、「ここで働きたい」と医療従事者に選ばれるまちにします。

◎迷わせない！医療と介護の「ワンストップ窓口」の設置

救急、専門治療、リハビリ、そして介護。どこに相談すればいいか迷うことはもうありません。IT（医療DX）、移動診療の導入も活用し、医師会、歯科医師会や薬剤師会などと連携して、生まれる前から人生の最期まで途切れないネットワークを構築します。

◎「ありがとう」が響き合う、温かい医療・健康文化づくり

医療は、支える側と受ける側の信頼関係で成り立ちます。医療現場の声を市政に直接届ける場をつくり、日々命と向き合う医療従事者の皆さまへの感謝と尊敬の気持ちを、地域全体で育むことで、みんなで、健康な日常を支え合う、風土を創りだします。

◎みんなでつくる健康なまちづくり

心身ともに市民の皆さまが健康で毎日を暮らせるために、各種検診や保健指導、予防医療などの取り組みを強化します。また、健康なまちづくりの風土をみんなでつくりだすために、健康宣言（歯、身体、心）をします。

◎医療と健康への投資には躊躇しない

財源もあらゆる手段で確保し、スピード感をもって安心できる医療体制を構築します。

【安心できる介護環境の構築】

介護する人にも、介護を受ける人にも安心できる介護体制を構築します

◎介護しやすい環境を整えます

介護に携わっている、携わりたい人、介護職を目指す若い人などが、資格などを取得するため支援を提供します。

◎介護に携わる人の暮らしを支えます

介護に携わっている人が、やりがいをもって仕事が続けられるよう、処遇改善を継続・強化します。

◎医療から介護につなぐ環境を充実させます

医療から安心できる介護につなぐための環境を整備します。

【福祉の質の向上】

◎障がい、ひきこもり、高齢者、生活困窮など複雑化した課題や不安に対応するための組織の壁をなくし、まるごと受け止めて支援します（重層的支援）

◎高齢者・障がい者の自立支援を後押しします

重層的支援体制の構築により複雑化した生活課題に対応し、介護予防の推進や自立できるための環境を整備するのに合わせ、認知症に対する理解を深める「認知症フレンドリー社会」を実現します。

【子育て支援／こどもたちの笑顔がまちの宝物】

◎ずっと続く負担ゼロ

小中学校の給食費の完全無償化と高校卒業までの医療費助成を継続します

◎生まれる前から成人期までの切れ目のない支援の提供

◎こどもが安心して自分らしく過ごすことができる「居場所」を確保します

既にお取り組みをされている民間組織との連携などにより居場所となる環境の整備と利用促進により、だれ一人取り残さない地域づくりを進めます。

◎保育や幼児教育、その他多様な託児サービスの提供と必要な人材の確保と育成

◎全天候型の「こどもの遊び場」の魅力向上と近くで安心して遊ばせることができる施設整備

◎こどもの誕生や成長を共に喜び合える地域社会の実践

こどもの意見が反映される社会をつくるとともに、だれもが必要な情報を簡単に入手でききめ細かな情報発信や交流を進めます。

【日々の暮らしを応援】

◎暮らしと営み応援クーポン（商品券）の定期的な発行

物価高騰が進む中、市内の様々な場所で利用できるクーポン（商品券）を定期的に発行し、市民の皆さまの暮らしを応援して市内での消費を進めることで、市民の皆さまの営みを応援します

【新たな教育の実践】

◎不登校対応の教育環境を、より一層充実させます

学びの多様化教室「にじ色」の設置、医療的視点を持つ「心のスクール検討委員会」の設置など、どの子どもが安心できる居場所の設置と不登校未然防止策の推進に取り組みます。

◎多様な教育の実践

各学校において学校運営協議会や地域等と連携し、地域に根差した教育の実践を強化し、それぞれが特徴のある取り組みを行います。

◎朝日学園（１年生から９年生）開校と学区の撤廃（どこからでも通えるように）

朝日学園（義務教育学校：１年生から９年生）を開校し、未来の高山を見据えた特色ある教育を進めるとともに、学区を撤廃し、朝日学園には市内のどこからでも通えるようにします。（莊川さくら学園では実施済）

◎幼稚園・保育園教育と小学校教育との円滑な接続の強化

幼稚園・保育園と小学校が学びや生活基盤づくりで更なる連携と共通理解の強化を図り、切れ目ない支援と体制の充実で、安心して子育てできるよう進めます。

◎新給食センターの整備

地元の農産物を使用し、安心して栄養バランス良い楽しい給食センターを整備します。

【地域防災力と減災の強化】

◎地域防災力の強化

まちづくり協議会を中心とした地区防災計画の作成を促し、実践的な訓練や防災リーダーの育成を通じて、災害に対応できる人材を育てます。

◎消防・救急体制の確立

消防団員の処遇改善による体制維持や、医療機関と連携した搬送体制の整備により、市民の生命を守ります。

Ⅱ いとなみを育てる

【ものづくりのまちの確立】

飛騨高山は農畜産業から飛騨の家具に代表される木工、建築、製造業、食、有形無形のサービスまで、飛騨の匠のDNAを引き継いだものづくりのまちです。

これから、ものづくりのまちとしての色合いをより濃いものとして、「飛騨の匠の技」と「いとなみ」を未来へつないで行きます。（その環境整備を実施します）

◎ものづくりの連携強化

高山には高山工業高校、飛騨高山高校、木工芸術スクールといった教育機関があります。岐阜県教育委員会と連携し、ものづくり教育環境をより充実させて、地域でものづくりに携わりやすい環境を整備します。

◎未来の担い手づくり

中小・小規模事業者の事業承継や、伝統建築を支える「飛騨の匠」の技を継承する人材の育成に取り組みます

◎ものづくり人材の確保

建築現場など、様々な分野において必要な技術の取得と継承をサポートし、地域で活躍しやすい環境を整備することで、ものづくりに携わる人材を確保します。

【日々の営みを応援】

◎暮らしと営み応援クーポン（商品券）の定期的な発行

物価高騰が進む中、市内の様々な場所で利用できるクーポン（商品券）を定期的に発行し、市民の皆さまの暮らしを応援して市内での消費を進めることで、市民の皆さまの営みを応援します

【第１次産業から第３次産業へ繋ぐ環境の整備】

◎林業のサプライチェーンの確立・山からまちへつながる産業へ

林業から木工製品製造、販売へのサプライチェーンを強化して川上から川下への道筋を確立するとともに、山の仕事や製材事業をバックアップし、それぞれのいとなみが持続可能となる体制を強化します。

※サプライチェーン＝原材料の調達から製造、物流、販売、消費に至るまで、商品のサービスが最終消費者に届くまでの一連のモノと供給のつながり

◎持続可能な農林畜産業の確立

新たな農業技術の導入による生産性向上や、繁殖牛舎の整備支援、移住者や学生への支援を通じた新たな担い手の確保・定着を進めます。

◎農畜製品のブランドの強化

全国的なブランドとなっている飛騨牛、飛騨の野菜（蔬菜）、飛騨のコメ、飛騨の農畜産品の生産者の育成（新規就農支援）と販売促進への支援と農畜産品のブランド強化を進めます。

【伝統文化が息づくまちの確立】

◎伝統文化における人材確保、経済活動につなげるための資金調達の仕組みの創設

各地域で催されている例祭や地域に密着した伝統文化、伝統芸能を将来にわたって持続可能なものとするため、民間とともに組織を創設し、取り組みを経済活動につなげることによって、必要な資金を調達し、人材を確保します。

【地域コミュニティの活性化】

◎町内会活動の維持

町内会活動の取り組みを更に見直し、町内会への入会を促すのに加え地域活動の維持を強化します。

◎市域一体型から地域特化型へのまちづくりへ

日本一広い市域を有する飛騨高山には、地域ごとにそれぞれの文化や風習が継承されています。地域振興、福祉、教育、公共交通などの分野において、それぞれの地域特性に即した取り組みを支援、実施することで、それぞれの地域を活性化し、安心して暮らせる施策を展開します。

【若者と女性活躍支援】

◎若者の活躍と地元定着へのサポート強化

地元企業と連携した地元就職の促進や、若者が主体的に活動・交流できる機会を提供するのに合わせ、若者がまちづくりに関わることができる仕組みを構築します。

◎女性に特化した活動支援の実施

女性の起業支援、女性の雇用支援等、各世代の女性の活動を促すために、女性に特化した支援を行います。

◎多様な人材の活躍促進

DXの推進や最新技術の活用により生産性を向上させるとともに、多様な人材が働きがいを感じられる労働環境を整備します。

◎若者の創業支援の強化

◎若者がチャレンジできる取り組みの強化

◎若者のための就業支援の強化

【観光と市民生活の共生】

◎まちづくりに生かす宿泊税の使い方＝宿泊税のまちづくりへの活用

令和7年度に導入した宿泊税について検証・見直しを行い、より市民生活の向上にも寄与する制度に改善を行います。

◎住む人も訪れる人もお互いを尊敬し合える環境づくり

来訪者（外国人観光客）へのマナー遵守のための取り組みの強化を実施します。また、民泊増加による市民生活への影響を無くす取り組みの強化やごみの処理などの環境を整備します。

◎中心地から周辺部への観光の誘導

周辺部で始まっている観光の取り組みを後押しすることで、市街地に集中しがちな観光を周辺部に

誘導するための取り組みを支援します。

◎観光を活用した、持続可能な地域づくりの推進

Ⅲまちを整える

【荘川町六厩（むまや）での産業廃棄物最終処理場建設に反対】

昨年、反対を表明した荘川での産業廃棄物処分場建設について、「市としてできることはすべてやる」という意思と責任のもと、建設計画の白紙撤回に向け、法的・科学的根拠に基づいた対策などを実施します。

市内、富山県のような様々な団体、白川村、南砺市をはじめとする富山県の流域の市と連携した取り組みを強化します

【暮らしを豊かにする環境・基盤整備】

◎芸術・文化・スポーツ・映画・芸能などを鑑賞・観戦する機会の創出や支援

これらは、市民の皆さまが暮らして行く上で、心の拠り所になるものです。様々な文化やスポーツに触れる機会を創出することで、暮らしの中に生きがいや、やりがいをみつけられるような取り組みを実施します。

◎芸術・文化・スポーツ・映画・芸能活動への支援

すでに様々な分野で活動しておられる市民の皆さまの活動を支援します。

◎中心から周辺部へ

増えつつある市街地での民泊を、市街地から周辺部の空家の活用に誘導する取り組みを行います。

◎道路、上下水道、河川整備の強化

財源の確保も含めた国や県と連携した中部縦貫自動車道や東海北陸自動車道の整備促進、都市計画道路の整備をすすめ、利便性の向上と地域活性化を促進するのに合わせ、地域の道路などの維持管理や整備を地域の事業所に委ねるなど、より効果的な取り組みを行います。

◎インフラの造形を魅せる

砂防堰堤、トンネル、インターチェンジ、橋梁といった社会インフラを、自然と融合した新たな景観として活用することで、人を引きつける資源として活用します。

◎飛騨高山にふさわしい景観の醸成

市街地や周辺地域での街路樹や景観を守り、整備をすることで、飛騨高山にふさわしい景色を保全・創出します。

◎環境・エネルギー施策の促進

再生可能エネルギーの導入促進による地産地消や、新ごみ処理施設の安定稼働、資源循環（3R）の推進により、脱炭素社会と循環型社会の形成を目指します

【市民の皆さまのため市役所作り】

◎より便利で利用しやすい市役所に

DX の活用や制度を見直すことで、行かなくてもよい市役所、書かなくてもよい市役所、情報が届きにくい人への配慮を実践し、市民の皆さまにとってより利用しやすい市役所となるよう取り組みを強化します。

◎風通しの良い市役所の文化づくり

市長がどのように素晴らしい政策を述べたとしても、市の職員皆さまが同じ方向を向いて、仕事をしていただかなければ何ひとつ実行できません。より議論ができ、意見が言いやすい市役所となるような文化を創り、市民の皆さまのために存在する市役所を創ります。

【市政運営にあたって】

～飛騨高山らしさにこだわる市政運営～

地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。＜地方自治法第1条の2＞

地方公共団体の役割は市民の皆さまの「福祉の増進」であり、それ以上でも、それ以下でもありません。それを念頭に入れた上で、一時の現象や流行に右往左往しない、飛騨高山らしさを貫くことを強く意識した市政運営を行います。

また、社会や環境の変化が激しい中、今の行政運営に大切なものの一つに、これまで行政が持っていた物差しでは計りきれない部分をどう補うかという大きな課題があります。その課題を解決するには、社会の変化に敏感で、地域を知り尽くし、様々な分野で自主的・主体的に活動をしておられる市民、団体、事業所の皆さまとの連携が不可欠であると考えています。

そして、できないことは約束しません。市民の皆さまとの連携をとおして、皆さまのニーズや要望の基となっている行政課題を的確に読み取り、政策に結び付けます。

【田中あきらのバックボーン】

＜バックボーン1（幸せって何？）＞

私は、若いころに一年間デンマークに住んでいたことがあります。デンマークを選んだのは、デンマークが、なぜ世界でも有数な幸せな国とされているのか、なぜ高福祉を実現できているのかに興味があったからです。

その理由は沢山ありました、徹底した平等主義、みんなで支える社会の構築、無駄をなくすことへの高い意識等々です。

こうしたデンマークでの体験は、私が幸せについていろいろ考える上でのバックボーンとなっています。

＜バックボーン2（地域振興って何？）＞

私は、最初に管理職になったとき、久々野地域に赴任しました。その後、久々野を離れ市全体の地域振興の責任者となり、高山のいろいろな地域を訪問するうちに、久々野での2年間を含めて、地域のことを真剣に考えて、自らの時間を削ってでも様々な地域の活動に真剣に携わる人に出会いました。ときには愛情をもって叱られ、一緒に喜ばれ、激励され、そして、地域の方から多くのことを学びました。

学んだのは「地域に入ることの大切さ」「市役所の役割は、地域の方々の思いを正確に読み解き、施策に反映すること」「地域振興の意味は、地域の特産品の創出にこだわるのではなくて、その地で生業（なりわい）を続けられるようにすることを基軸に施策を組み立てて、実行すること」等々です。そして一番大切なこと「どんな施策も、一見、直接関係のないと思われるような人たちの生活や幸せにどうつながっているのか、最大限に想像しながら実行すること」を学びました。

市長になっても、それは全くブレていません。なぜなら、そうして学んだことが、バックボーンとなって私の心と身体にしみ込んでしまっているからです。